



「ARES ESG AWARD 2024」受賞者決定

JリークのESGへの取り組みが一段と進化

一般社団法人不動産証券化協会（ARES）は、2002年に金融庁と国土交通省が所管する社団法人として設立された団体で、Jリート（日本版不動産投資信託）の普及推進を通じて不動産投資市場の拡大に寄与することを目的としている。ARESは昨今のESGへの関心を受けて、JリークのESGに関わる取り組みを顕彰するARES ESG アワードを2023年度に

創設した。JリークのESGに関わる取り組みの底上げや、投資家などに対する業界全体のアピールにつなげる狙いがある。

ARESは2025年1月24日に2回目となる「ARES ESG AWARD 2024」の受賞8投資法人を公表した。同日に都内で開催された表彰式では、菰田正信会長よりそれぞれの資産運用会社の代表者に賞状が授与された。

「ARES ESG AWARD 2024」の審査員は「(Jリート各社は)環境方針の策定や保有不動産における再生エネルギーの活用に加えて、自然資本の拡充をはじめとした新たな施策を講じるなど、一段の進化を遂げています」と総評。ARES ESGアワードの制度設計や運用支援に携わっている日本総合研究所は「本アワードはJリークの優れた取り組みを会員同士で共有できる貴重な場だと考えています。今後も、業界全体における取り組みの深化に貢献することを願っています」とコメントしている。

ARESが公表した「JリークのESG取組調査2024」によると、2024年度における全Jリークの総保有不動産に占める環境不動産の割合は、前年度比4.5%増の73.6%となった。人権



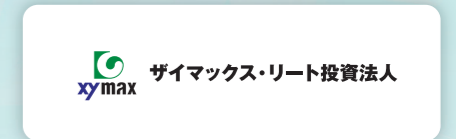
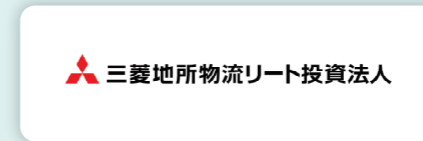
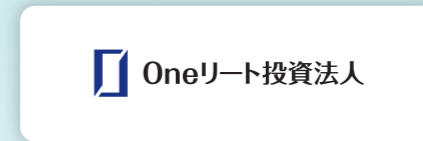
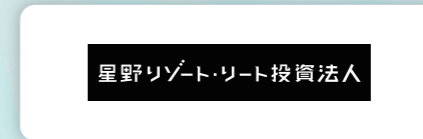
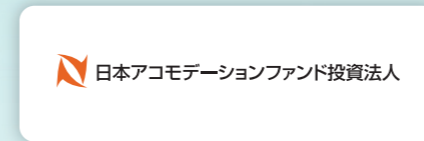
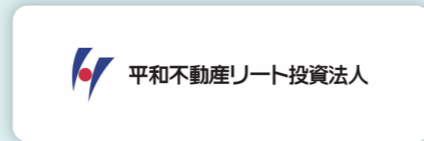
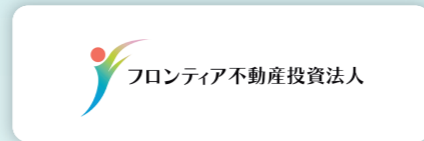
ARESの菰田正信会長（中央）と8投資法人の資産運用会社の代表者

擁護や従業員の多様性などに関わる方針の策定率は8割以上で、社会貢献活動に関する方針の策定率は9割以上に達している。サステナビリティ施策に関する社内における推進体制の構築率は9割以上となった。

ARESは、ARES ESG アワードの運営を通じて、今後も進化し続けるJリークの取り組みをサポートする構えだ。

「ARES ESG AWARD 2024」に以下の投資法人がエントリーされました（順不同）

グッドアクション賞（自薦）受賞	環境部門	既存オフィスビルのZEB化 JIRE INVESTMENT CORPORATION
	環境部門	室外機芋緑化システムの導入 Activia アクティビア・プロパティーズ投資法人
	社会部門	従業員表彰制度によるESG活動支援 HULIC ヒューリックリート投資法人
	ガバナンス部門	ESG研修体制の充実 HCM ヘルスケア&メディカル投資法人
ベストレコメンド賞（他薦）受賞	環境部門	自然資本に対する取組み 大和ハウスリート投資法人
	環境部門	物流施設における太陽光パネル設置及び電力送電スキームの実施 MFLP 三井不動産ロジスティクスパーク投資法人
	社会部門	新たなサステナビリティ方針の策定 MASTER FUND 野村不動産マスターファンド投資法人
	ガバナンス部門	ステークホルダーミーティングの開催と情報開示 ORIX JREIT Inc. オリックス不動産投資法人



「JリークのESG取組調査2024」調査結果 ▶



「ARES ESG AWARD 2024」審査結果 ▶

